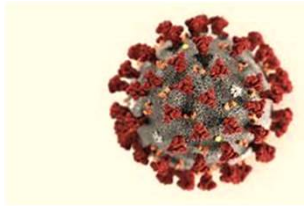


これからどうなる・どうする

新型コロナウイルス



文責：嶋田芳樹

今年に入ってから新型コロナウイルスへの感染が、地球規模で爆発的に拡大してきています。

それに関しては、テレビ・新聞で連日採りあげられていますので、皆さん十分ご存じのことですが。感染の現状・基礎疾患と重症化の関係、さらには今後の収束の見通しなどについて、十分な情報があるとは言えないように思われます。

そこでインターネットなどから、いろいろなデータを集めてみましたので、ご紹介したいと思います。多少なりとも皆さんのご参考になれば幸いです。

なお、ある専門家は日本の対応について、次のような辛口の意見を述べています。

- ① ヨーロッパの有識者は、このままでは「日本はもたない」と言っている。
- ② 国は前例のないことは苦手。百年来前例のない広域伝染病の市中感染なので、役人の言うことをそのまま鵜呑みにしても、効果は保証されないと知れ。
- ③ 「8割削減」とは見知らぬ人と一切会わないことと思え。
- ④ 「群れたら伝染する」ということを覚悟せよ。
- ⑤ 人・モノ・カネのすべてはウイルスまみれと思え。触れたら・踏んだら消毒を徹底せよ。

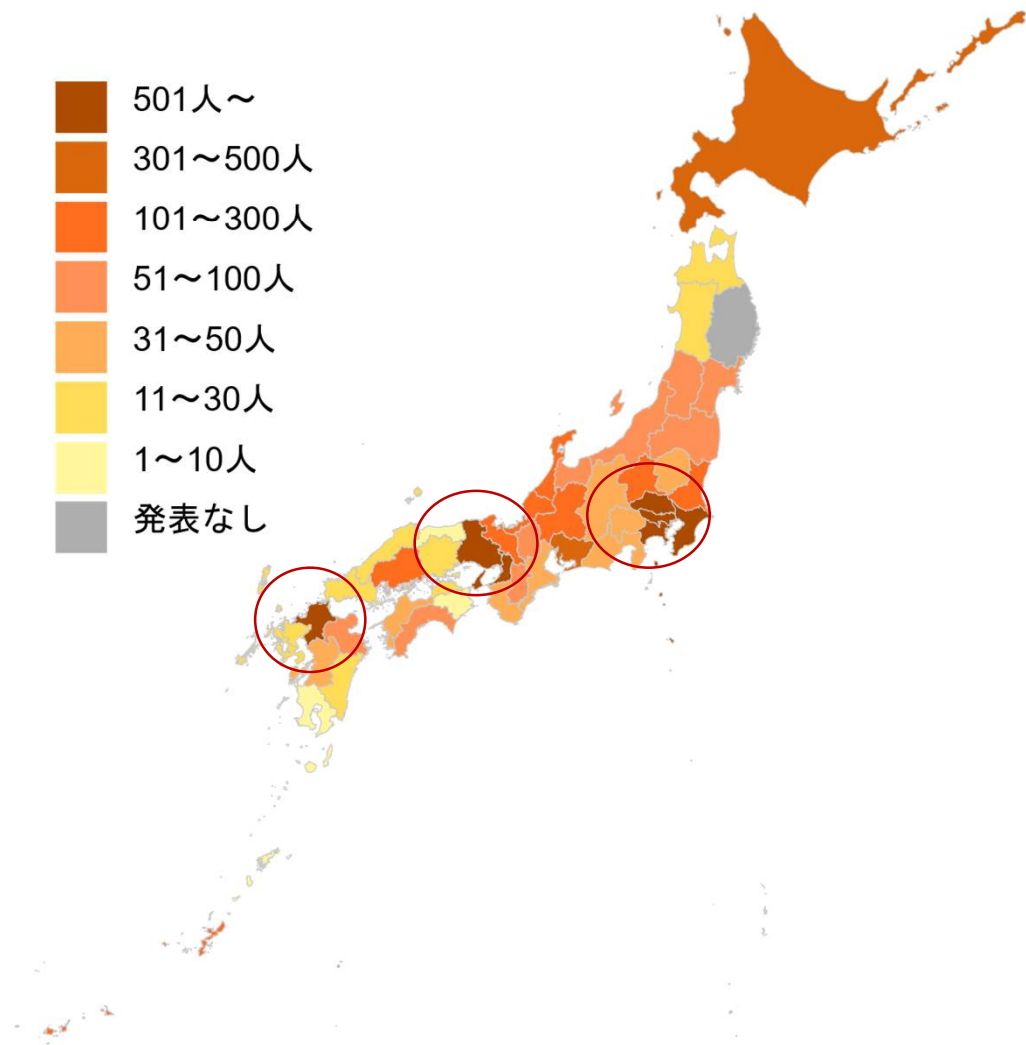
感染の現状はこのようになっています(4月13日現在)

(1) 日本における感染状況

NHKがまとめた地図で見えますと、右のようになっています。最初に「緊急事態宣言」が出された地域(大都市中心)に感染者数が多いことが分かります。

このうち感染者数が多い都道府県上位10は、次のとおりです。

都道府県	感染者数	都道府県	感染者数
東京都	1914	埼玉県	345
大阪府	767	愛知県	340
神奈川県	465	福岡県	332
千葉県	411	北海道	255
兵庫県	358	京都府	181



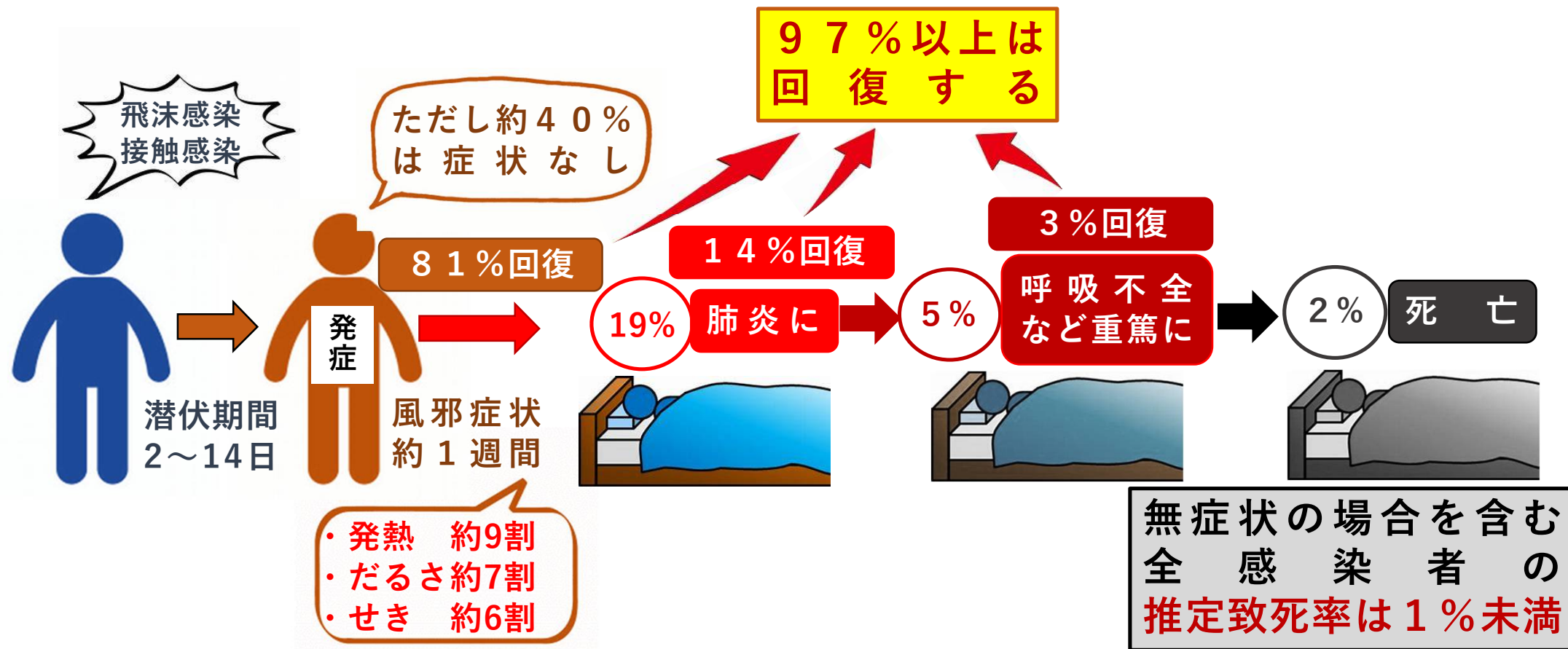
(2) 世界における感染状況

感染者数が多い国5位までと、中国・韓国・日本を比較してみますと、次のとおりです。日本の場合他の国と比較して、致死率が非常に低くなっています。

国名	感染者数	死亡者数	致死率(%)	回復者数	回復率(%)
全世界	1,846,680	114,090	6.18	421,722	22.84
アメリカ	555,313	22,020	3.97	32,988	5.94
スペイン	166,831	17,209	10.32	62,391	37.40
イタリア	156,363	19,899	12.73	34,211	21.88
フランス	133,670	14,412	10.78	27,469	20.55
ドイツ	127,854	3,022	2.36	60,300	47.16
中国	83,134	3,343	4.02	77,956	93.77
韓国	10,512	214	2.04	7,368	70.09
日本	6,748	108	1.60	762	11.29

感染者の約80%は軽症だが、重症化を見逃さない

新型コロナウイルスに感染したときにたどる推移について、「日経トレンディ」5月号の図を参考に作成しますと、次のようになります。



感染をどのようにして防ぐのか

5

これについては次の5項目について、皆さん十分ご承知でしょうが、正しい予防策について、感染症専門家の意見は次のとおりです。

◎手洗い



帰宅時・食事前
・トイレ後など
習慣をつける。

○消毒



家族全員が健康なら
不要。感染者が出た
ら共用部を消毒する。

○換気



家族全員健康でも
2～3時間に1回
が目安。

△マスク



無症状ならつけ
ないでOK。
外した後は必ず
手洗い。

○外出自粛



完璧な対策は困難
だが、工夫で避けら
れる。三密の1つで
もリスクがある。

(注) 「うがい」については、むしろウイルスを飲み込んでしまい、胃酸で溶かすほうが効果的という考え方もあるようです。

新型コロナで重症化する人とならない人、分けるものは何か

(1) 何が重症化のリスクになるのか

次のものが重症化のリスクとして指摘されています。

- ① 高齢者(特に70歳代以上)
- ② 基礎疾患(糖尿病・心不全・呼吸器疾患)がある人
- ③ 透析を受けている人
- ④ 免疫抑制薬や抗がん剤などを用いている人

(2) 上記①については、名古屋市衛生研究所・微生物部長の柴田伸一郎氏は、次のように指摘しています。

『一口に「高齢者」と言っても、すべての人が重症化するわけではなく、基礎体力が落ちて、余命僅かな状況の人が重症化し、最悪の場合亡くなっている印象です。過去にノロウイルスが流行した際も、重症化や死亡したのは、弱ったお年寄りが多かった』

(3) 一方、上記②については、次のような指摘があります。

① WHO(世界保健機関)と中国を含む25カ国の専門家が、2月25日付でまとめた報告書によれば、中国での感染者の死亡率は、次のようになっています。

- ＊併存疾患がない人： 1.4%
- ＊心・血管系疾患のある人：13.2%
- ＊糖尿病のある人： 9.2%
- ＊高血圧のある人： 8.4%

② **あらゆる基礎疾患の中で、高血圧は重要な危険因子**

中国・武漢で働く中国人専門医は、1月に武漢で死亡した感染者170人のうち、半数近くが高血圧を患っていたというデータを踏まえると、「あらゆる基礎疾患の中で、高血圧は重要な危険因子である」と述べています。

(4) また、愛煙家にはショッキングな話と思いますが、新型コロナとタバコの関係について次のような指摘があります。

- ① 米フロリダ大学や北京大学などのチームは、中国で報告された感染者約8900人について分析した論文を公開した。それによると、感染者のほぼ半数は50歳以上で、患者のうち亡くなる割合(致死率)は、全体で3.1%。ただし、男性だけで見ると4.5%で、女性の1.3%の3倍以上であった。
- ② WHOの緊急対応責任者のマイク・ライアン氏は、『**タバコがあらゆる呼吸器感染症の悪化要因であることは言うまでもない。今回も例外ではないだろう**』と述べている。
- ③ 大阪大学・感染制御学の朝野和典教授は、『**タバコが一般的な肺炎による死亡リスクを高めることは広く知られている。新型肺炎の重症化にかかわっていたとしても不思議ではない**』と話している。

【参考】 新型コロナウイルスとタバコの関係について

去る3月29日、新型コロナウイルスで亡くなった志村けんさんは、最近では禁煙していたようですが、かつては1日に60本以上も吸うヘビースモーカーだったようです。

このコロナウイルスとタバコの関係について、岡山済生会病院呼吸器内科部長・川井治之氏は、次のように述べています。

- ＊ 今はやめていたとしても、過去に喫煙していた人の場合、いわゆる「タバコ肺」と呼ばれるCOPD(慢性閉そく性肺疾患)になっていることが多い。志村さんもヘビースモーカーだったそうなので、可能性は高いと思う。新型コロナウイルスに感染した場合、吸っていない人に比べ、重篤化しやすいことは間違いない。
 - ＊ 喫煙者は、コロナウイルスに感染するリスク自体も上昇する。タバコを吸う際は必ず手を口に持って行くので、手に付着していたウイルスが口や鼻を通じて体内に入る可能性が高くなる。タバコを吸うという動作そのものが感染のリスクを上げている。
- (注) 中国の調査チームが、**中国国内でコロナ感染と確定した患者1099名を調べたところ、喫煙者は非喫煙者よりも重症化しやすい傾向がみられたという。**

今回の新型コロナウイルスの場合、これまでのウイルスと一番の違いは、「感染経路不明者」が非常に多いということです。

なぜこのようなことが起こるのか、私見ですが、次のような原因が複合している結果ではないかと思います。

- (1) 次のような人が、自分でも意識しないうちにウイルスを排出している。
 - ① 感染者の約40%が無症状という報告がある。
 - ② 症状が出るまでの潜伏期間が2～14日と長く、その間ウイルスを排出する。
 - ③ 感染者の場合、8～37日間ウイルスを排出し続ける。
- (注) 4月24日付の新聞報道によると、「米国・NY市の検査結果では、5人に一人が陽性という結果が出た」ということです。
- (2) 気温が低く空気が乾燥していると、ウイルスは無傷のまま長く生存し、空気中を遠くまで移動する。
- (3) ある研究者の分析によれば、年代別の感染者と鉄道利用者のグラフを比べて見ると、40・50・60歳代は、鉄道利用者数とコロナ感染者数の割合が、かなり近い値になっている。これについて専門家会議では、電車内は「3つの密」に該当しないとされ、「感染経路不明」として扱われているが、それについては疑義がある。

新型コロナへの爆発的な感染拡大で、私たちの生活に様々な影響が生じていて、一日も早い収束が望まれるところですが、現時点における見通しはあまり明るいとは言えないようです。それについて専門家の意見をご紹介します。

- ① これまでの「季節性」とされるインフルエンザウイルスなどであれば、気温の上昇とともに収束するので、新型コロナウイルスの場合も夏になれば流行が収まるだろう、と考えたくなるのは理解できる。

しかし、米メリーランド大学の研究者スチュアート・ウェストン氏は、「これも季節性のものであればいいが、今は何とも言えない」と話している。

なお、かつて流行したインフルエンザ「スペイン風邪」の場合、収束するまでに1年かかっている。

- ② 前出の『なぜ「感染経路不明」が多いのか』の(1)のとおり、自分では気づかずに長期間ウイルスを排出する人がまだまだいる。韓国では、感染治療後に検査で陰性になった患者91名が、退院前の検査で再び陽性反応示したという報告があり、WHOは「新型コロナウイルスは新しい病気なので、それが収まったと判断するには、より多くの疫学的データが必要だ」としている。

※ 「公衆衛生」の第一人者である渋谷健司氏は、次のように述べています。

(注) 渋谷健司氏は、元WHO(世界保健機構)のシニアサイエンティスト・同コーディネーター・東京大学教授を経て、現在同大学客員教授・英国キングス・カレッジ・ロンドン教授などに就任されています。

- ① 韓国は、一時は日に800人を超えていた感染者数を、一けた台にまで減少させている。これは徹底的に行った「検査に次ぐ検査」の成果で、「ドライブスルーによるPCR検査」や「ウォークスルー検査」を行っている。
さらに、日本で何かと話題になっているマスクについても「週に1回、1人2枚まで購入可能で、重複購入はできない」というルールを決めている。
- ② 日本はこれまで感染者の入国を防ぐ「水際対策」と「クラスター対策」という**伝統的な考え方を採ってきているが**、新型コロナウイルスのように、潜伏期間も長く無症状でも感染させる可能性があるウイルスに関しては、**この先従来の対策でウイルスを封じ込めることは、ほぼ不可能である。**
したがって、日本においても韓国に見習って、「国民全員にPCR検査の実施」と「無症状感染者の隔離」に力点を置くべきである。

- ③ 無症状感染者が感染を広げる可能性については、すでに医学雑誌で報告されていて、米国の介護施設における詳細な調査では、無症状感染者が感染者全体の半分以上を占め、そこから感染が広がっている可能性を示している。
- ④ 新型コロナウイルスについては、米国CDC(疾病対策センター)のレッドフィールド所長が、「この冬の第2波がより厳しいものとなる可能性」を警告しているように、**いったん収まったように見えても、第2波・第3波が繰り返し押し寄せ、少なくとも数年にわたる戦いになることを覚悟する必要がある。**
- ⑤ 英国の公衆衛生専門家30名以上が連名で、政治家・医務技監・主席科学顧問あてに送った、「1週間に1度、国民全員に定期的にPCR検査を行う」という書簡が物議をかもしている。

当然、今すぐ実施することは不可能で大きなハードルがいくつも存在するが、公衆衛生的観点からは極めて重要な意味を持つものであり、その方向性には大いに賛成である。